

国 語

科目名	単位数	学科	学年
国語表現Ⅱ	2単位	農業科(畜産科)	3年

教科書	国語表現(大修館書店)	副教材	常用漢字アルファ(桐原書店)
-----	-------------	-----	----------------

科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	声とコミュニケーション 言葉のストレッチ体操 書いて伝える 整った文を書く わかりやすい文を書く 文のつなぎ方 絵や写真を見て書く 自己PRと面接	・わかりやすく読みやすい、 整った文章を読む力を身に 付ける。 ・目的や場に応じて、言葉 遣いや文体などを工夫す る。
2 学 期	会話・議論・発表 議論して結論を出す プレゼンテーションの工夫 表現を楽しむ 魅力的なポスターを作ろう わが町自慢のパンフレット作り エッセイを書こう	・話題や題材に応じて情報 を収集し、分析して、自分 の考えをまとめる。 ・相手や目的に応じてメデ ィアを選択し、効果的に表 現する。
3 学 期	演説合戦にチャレンジ	・目的に応じて情報を整理 し、内容や表現の仕方を工 夫する。
学 習 の ポ イ ン ト	1 進路実現をめざして、入学試験の小論文をきちんと書くことができるようにしよう。 2 正しい言葉遣いをし、自分の考えをはっきり述べるようにしよう。 3 わからない言葉はすぐに辞書を引いて調べ、語彙を増やそう。 4 文章の要点を読み取り、要旨をまとめることができるようになる。	
備考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	目的や場に応じて言葉遣いや文体など表現を工夫し、話したり文章にまとめたりしようとしている。			
	話す・聞く能力	自分の考えをもって論理的に意見を述べたり、相手の立場を尊重して話し合ったりしている。			
	書く能力	書くために必要な情報を収集、整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめている。文章に表したあと自分の表現を客観的に見直すことができる。			
	読む能力	文章の要点を押さえ、書き手が述べようとしていることを簡潔にまとめている。文章を読んでさまざまな表現に接し、自分の文章に生かしている。			
	知識・理解	目的や場に応じた文章表現を身に付けている。主な常用漢字についてその音訓を理解するとともに、文脈に応じた適切な使い方を理解している。			
定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○
評 価 方 法	定期考査、課題提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ 課題提出(課題への取組状況の確認) ○ 授業態度(真面目な態度、積極的な取組)				

地理歴史

科目名	単位数	学科	学年
日本史A	2単位	農業科(畜産科)	3年

教科書	高等学校改訂版日本史A 人・くらし・未来(第一学習社)	副教材	
-----	--------------------------------	-----	--

科目の目標	我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	序章 日本のあゆみをふりかえろう 第1章 近代日本の形成と19世紀の世界 1 国際環境の変化と幕藩体制の動揺 2 明治維新と近代国家の形成	・原始古代から近世までの歴史を復習する。 ・明治政府が行った近代化政策を理解する。
2 学 期	第2章 近代日本のあゆみと国際関係 1 国際関係の推移と近代産業の成立 2 政党政治の展開と大衆文化の形成 3 第二次世界大戦と日本	・明治から昭和初期の歴史を世界史と関連させながら理解する。
3 学 期	第3章 第二次世界大戦後の日本と世界 1 戦後の社会と政治 2 経済国家としての発展 3 現代の日本と世界	・戦後の日本社会の変化や国際社会の動きを理解し、現代社会の課題について考察する。
学 習 の ポ イ ン ト	1 教科書をしっかりと読むとともに、史料や図版等も目を通しておこう。 2 ゴシック体の単語をただ単に暗記するのではなく、歴史の流れの中で理解しよう。 3 歴史的用語、人名は漢字で書けるようにしておこう。 4 テレビ番組や本で歴史的なものがあれば、率先して見たり読んだりしよう。	
備考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	出席状況や授業の態度、ノート点検などを総合的に評価する。
	思考・判断・表現	歴史的なものの見方や考え方ができるかどうかを定期考査で評価する。
	技能	考査問題等の資料活用の技能や課題の提出状況、内容等を総合的に評価する。
	知識・理解	わが国の歴史の展開について、基本的な事項を理解し、その知識を身に付けているかを定期考査等で評価する。

定 期 考 査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ノート提出(予習・復習及び整理状況の確認) ○授業態度(まじめな態度、発表内容) ○定期考査(考査範囲の適切で計画的な学習の成果)
---------	--

数 学

科目名	単位数	学科	学年
数学Ⅱ	3単位	農業科(畜産科)	3年

教科書	高校数学Ⅱ(実教出版)	副教材	ステップノート数学Ⅱ(実教出版)
-----	-------------	-----	------------------

科目の目標	基礎的な知識の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1章 複素数と方程式 式の計算 複素数と2次方程式 高次方程式 式と証明 2章 図形と方程式 点と座標 直線の方程式 円の方程式	<ul style="list-style-type: none"> 複素数の四則計算を学ぶ。 複素数の知識を用いて高次方程式の解法を学ぶ。 式や図形から様々な公式を学ぶ。
2 学 期	2章 図形と方程式 不等式の表す領域 3章 いろいろな関数 三角関数 加法定理/弧度法 指数関数 対数関数 4章 微分と積分 微分係数と導関数 導関数の応用	<ul style="list-style-type: none"> 不等式が示す領域を正しく理解する。 様々な関数から特徴を学ぶ。 微分法から3次関数のグラフをかく。
3 学 期	4章 微分と積分 積分の考え	<ul style="list-style-type: none"> 積分法の基本的な計算を学び、与えられた面積を求める。
学習の ポイント	1 第1章では、数学Ⅰで学習した基本的な計算方法を定着させておくことが必要である。 2 第2章では、式から図形を読み取ることが必要です。正しい図をかくことを心掛けましょう。 3 第3章では、関数から方程式、不等式を解くためのポイントを押さえていきましょう。 4 第4章では、関数のグラフを正しく丁寧にかくことが問題解決につながります。	
備考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	授業態度・出席状況およびノートや副教材等の提出物状況进行评估				
	思考・判断・表現	授業時における質問に対する対応や課題等の内容を評価				
	技能	定期考査および単元テストから、問題を処理する能力を評価				
	知識・理解	定期考査および単元テストから、基本的な考え方、原理、法則、用語、記号の意味の理解を評価				

定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施予定	○	○	○	○	○

評価方法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 <input type="checkbox"/> ノート提出(予習・復習及び整理状況の確認) <input type="checkbox"/> 授業態度(まじめな態度、積極的な発表) <input type="checkbox"/> 小テスト(単元毎の小テストなど) <input type="checkbox"/> 課題提出(日常の課題及び長期休業中の課題)
------	---

数 学

科目名	単位数	学科	学年
数学A	2単位	農業科(畜産科)	3年

教科書	高校数学A(実教出版)	副教材	ステップノート数学A(実教出版)
-----	-------------	-----	------------------

科目の目標	基礎的な知識の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学期	1章 順列と組合せ 集合 順列 組合せ 2章 確率 確率とその基本性質 3章 整数の性質 整数の性質	<ul style="list-style-type: none"> 集合や順列、組合せを利用して、様々な場合の数について学ぶ。 実生活における具体的な例を通して場合の数や確率を学ぶ。 約数、倍数、最大公約数などの基礎的な内容を学ぶ。
2 学期	3章 整数の性質 ユークリッドの互除法と不定方程式 整数の性質の活用 4章 図形の性質 作図 三角形の性質 円の性質	<ul style="list-style-type: none"> 最大公約数を求める方法のユークリッドの互除法を学ぶ。 三角形や円などの基本的な図形の性質を学ぶ。
3 学期	4章 図形の性質 空間図形	<ul style="list-style-type: none"> 図形を空間的に捉え、その形や特徴について理解する。
学習の ポイント	1 第1章について、順列と組合せの使い分けができるように、何度も演習することが重要です。 2 第2章は、第1章の内容が理解できていないと解けない問題が多くあります。順列と組合せについて復習しながら問題に取り組んでいきましょう。 3 第3章は、約数・倍数・最大公約数等について改めて学び発展させていきます。まずはこれまでに学んだ基本的な性質を理解しておいて下さい。 4 第4章は、三角形や円の性質など平面図形に関する基礎的な内容を学んでいきます。円周角の定理など中学校で学んだことも出てきます。正しい図をかくことを心掛けましょう。	
備考		

評価の 観点	関心・意欲・態度	授業態度・出席状況およびノートや副教材等の提出物状況の評価			
	思考・判断・表現	授業時における質問に対する対応や課題等の内容の評価			
	技能	定期考査および単元テストから、問題を処理する能力の評価			
	知識・理解	定期考査および単元テストから、基本的な考え方、原理、法則、用語、記号の意味の理解の評価			

定期考査 実施予定	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
	○	○	○	○	○

評価方法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出(予習・復習及び整理状況の確認) ○ 授業態度(まじめな態度、積極的な発表) ○ 小テスト(単元毎の小テストなど) ○ 課題提出(日常の課題及び長期休業中の課題)
------	---

保健体育

科目名	単位数	学科	学年
体育	3単位	畜産科	3年

教科書	最新高等保健体育 (大修館)	副教材	イラストでみる最新スポーツルール (大修館)
-----	----------------	-----	------------------------

科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、健康・安全を確保して、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てさせる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	体づくり運動 (通年) 集団行動 新体力テスト、陸上競技 球技Ⅰ [個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法] 【男子】(ソフトボール) 【女子】(バレーボール) 体育理論 (各ライフステージにおけるスポーツの楽しみ方)	・ 自己の体力や生活に応じて取り組み、実生活に役立てる。 ・ ペースの変化に対応するなどして走る。
2 学 期	球技Ⅱ [個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法] 【男子】(サッカー・卓球) 【女子】(バスケットボール・テニス) 陸上競技 [中・長距離走] 校内マラソン大会 【男子】 8km 【女子】 4km 体育理論 (ライフステージに応じたスポーツとのかかわり方)	・ 作戦や状況に応じた技能や仲間と連携してゲームが展開できるようにする。
3 学 期	球技Ⅲ [個人的技能、集団的技能、ゲーム及び審判法] 【男子】【女子】 (サッカー・バレーボール・卓球・テニス) 体育理論 (スポーツ振興のための施策と諸条件) (スポーツと環境)	・ 豊かなスポーツライフの設計の仕方について理解できるようにする。
学 習 の ポ イ ン ト	1 自らの特性を生かしたり、伸ばしたりする上で、能力等に応じて運動を選び、その運動を得意にしていくなどして生涯スポーツの基礎づくりをしよう。 2 集団としての行動を秩序正しく、能率的に行えるようにしよう。(5分前行動) 3 互いに協力して自己責任を果たそう。	
備 考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで運動しようとしている。公正、協力、責任などの態度を身に付けようとしている。健康・安全に留意して運動をしようとしている。	
	思考・判断・表現	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。	
	技能	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。自己の体力や生活に応じた体力を高めるための合理的な行い方を身に付けている。	
	知識・理解	社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身に付けている。	

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定					

評 価 方 法	出席状況、授業態度、運動の技能、体育理論の理解度等を総合的に評価する。 ○ 出席状況、授業態度・意欲 (授業の参加状況、意欲的でまじめな態度) ○ 運動の技能 (各種運動の技能の習熟度、審判法の理解度) ○ 体育理論の理解度 (理解度の確認テスト)
---------	---

芸 術

科目名	単位数	学科	学年
音楽Ⅱ	3単位	農業科(畜産科)	3年

教科書	音楽Ⅱ Tutti 改訂版(教育出版)	副教材	なし
-----	---------------------	-----	----

科目の目標	音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	歌唱 TOMMOROW、瑠璃色の地球、ありがとう 器楽 ギターアンサンブル、発表会 楽典 音名、調の判定	・歌詞の意味を学び、積極的に歌う。 ・全員で合奏する楽しさを知る。 ・音楽の基本的な内容を知る。
2 学 期	歌唱 クラスの合唱曲、Amazing Grace 鑑賞 印象派の音楽(ドビュッシー、ラヴェル) 器楽 三線、発表会	・クラスで協力して一つの作品を仕上げる。 ・楽曲の特徴を知る。 ・日本の伝統楽器に触れる。
3 学 期	観賞 近現代の音楽 器楽 リコーダーアンサンブル 家庭学習	・クラシック音楽に触れ、理解を深める。 ・アンサンブルの楽しさを知る。
学 習 の ポ イ ン ト	1 基本的な楽譜の読み方や書き方、演奏に対して、しっかり学び、できることを増やそう。 2 すべての領域において主体性、積極性を持って活動しよう。 3 表現する楽しさや合わせる楽しさを感じ、音楽的な視野を広げよう。	
備考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	音楽の諸活動を通して、音楽を愛好し、音や音楽に対する興味・関心を高め、音楽文化を尊重する態度を身に付け、個性豊かで主体的な音楽活動をしようと努めているか。
	思考・判断・表現	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取って個性豊かな音楽活動の工夫ができていくか。
	技能	自己の解釈やイメージを表現するための技能を高め、それを生かして個性豊かに表現する。
	知識・理解	歴史的・文化的背景とともに音楽固有の価値の理解を深め、主体的に鑑賞等をする。

定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施予定					

評価方法	授業内の小テスト(筆記)、実技テスト、ノート・ファイル提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ファイル(プリントの確認) ○ ノート(小テストの訂正など) ○ 確認テスト(各学期末に授業内で実施) ○ 課題提出(長期休業中の課題) ○ 授業態度(まじめな態度、積極性、発表会、練習態度)
------	---

芸 術

科目名	単位数	学科	学年
美術Ⅱ	3単位	農業科（畜産科）	3年

教科書	美術2（光村図書）	副教材	
-----	-----------	-----	--

科目の目標	芸術の幅広い活動を通して、生涯にわたり芸術を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、芸術の諸能力を伸ばし、芸術文化についての理解を深め、豊かな情操を養う。
-------	--

	学 習 項 目		学 習 の ね ら い
1 学 期	絵画 鑑賞	デッサン、スタジオジブリ作品の風景画を模写する ヒエロニムス・ボス	・デッサンや水彩画の技法を習得し表現する。 ・イメージを形にする。
2 学 期	彫刻 版画 鑑賞	ペーパーナイフを作る 木版画 ヤン・ファン・エイク	・版画の面白さに気づく。 ・版画の技法を習得する。
3 学 期	絵画	自画像	・陰影表現の奥深さに触れ、表現の幅を広げる。
学 習 の ポ イ ン ト	1 様々な表現方法を学び、技術を身に付けよう。 2 自分の思いを表現しよう。 3 作品の良さを発見し言葉にして伝えよう。		
備考			

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	美術に関心を持ち、積極的に授業に取り組み、意欲的に表現し鑑賞することができる。
	思考・判断・表現	作品の主題を理解し、アイデアやイメージを膨らませ、表現の方法を工夫することができる。
	技能	技能を習得し、表現することができる。
	知識・理解	授業の内容を習得し、芸術文化への理解を深めている。鑑賞を通して感性を高め表現することができる。

定期考査 実施予定	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
--------------	-------	------	-------	------	-----

評 価 方 法	作品、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○授業プリントの提出（授業内容の理解の確認） ○授業態度（真面目な態度、積極的な発表など） ○課題提出（日常の課題及び長期休業中の課題） ○鑑賞プリントの提出
---------	--

外国語（英語）

科目名	単位数	学科	学年
英語表現 I	2単位	畜産科	3年

教科書	Vision Quest English Expression I Core (三省堂)	副教材	
-----	---	-----	--

科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	Lesson 1 Do you like sports? (自分やクラスメートを紹介) Lesson 2 I study Japanese through anime. (興味や関心のあること) Lesson 3 Will you go back home this summer? (旅行の計画) Lesson 4 I've never played soccer before. (スポーツの経験) Lesson 5 The apple pie is delicious. (レストランで注文)	・文の種類 ・文型と動詞 ・時制 ・完了形 ・助動詞
2 学 期	Lesson 6 I'm so glad I can see the Sydney Opera House. (歴史的建造物について) Lesson 7 Thank you for your Invitation today. (もらったもの) Lesson 8 How about going together this weekend? (好きな娯楽) Lesson 9 I'm unpappy with our school uniforms. (学校の制服) Lesson 10 That's why it looks so nice! (日本の文化)	・受動態 ・不定詞 ・動名詞 ・分詞 ・関係詞
3 学 期	Lesson 11 I hear the population of Japan is falling quickly. (目的地への交通手段) Lesson 12 I wish it were possible to get it back. (悩み事に助言)	・比較 ・仮定法
学 習 の ポ イ ン ト	1 基礎・基本の表現力の定着を図るため、必ず予習をして授業に臨み、学習に集中しよう。 2 辞書を活用しながら、自分の考えや意見を英語で作り、意欲的に発表しよう。 3 ノートや課題、プリントなどは必ず期限内に提出しよう。	
備 考		

評 価 の 観 点	コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	授業中の活動に関心を持ち、間違いを恐れず、積極的に表現し、コミュニケーションを図ろうとしている。
	外国語表現の能力	学んだ文法や表現を使って、文章を書いたり話したりしようとしている。
	外国語理解の能力	英文を聞いたり読んだりして、正しく理解することができる。
	言語や文化についての 知 識 ・ 理 解	様々なトピックについて内容がわかり、学んだ文法を理解している。学習した内容を知識として定着させようと努力している。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出 (予習・復習及び整理状況の確認) ○ 授業態度 (真面目な態度、積極的な発表、ペアワーク、グループワーク) ○ 課題提出 (日常の課題及び長期休業中の課題)
---------	--

家 庭

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
子どもの発達と保育	3単位	農業科 (畜産科)	3年

教科書	子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う (教育図書)	副教材	
-----	------------------------------	-----	--

科目の目標	子どもの発達の特性や発達過程、保育などに関する知識と技術を習得させ、子どもの発達や子育て支援に寄与する能力と態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	第1章 子どもの発達の特性 第2章 子どもの発達過程 (実習) 児童文化財の製作	<ul style="list-style-type: none"> ・発達の概念や乳幼児期が人間の発達の基礎を培うことを理解する。 ・誕生から幼児期までの発達の時期における特徴を理解する。
2 学 期	第3章 子どもの生活 第4章 子どもの保育 (実習) 保育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの健康な生活に必要な基本的な生活習慣の形成の基礎について学ぶ。 ・乳幼児の発育・発達に応じた適切な保育の重要性について学ぶ。
3 学 期	第5章 子どもの福祉と子育て支援 (実習) 保育実習	<ul style="list-style-type: none"> ・児童福祉に関する基本的な法規の目的と概要を学ぶ。
学 習 の ポ イ ン ト	<ol style="list-style-type: none"> 1 子どもの安全を守るために、正しい知識を習得しよう。 2 思春期の健康が健全な母性・父性の育成につながることを理解し、実践しよう。 3 子どもの理解を深めるために、乳幼児とのふれあいを大切にしよう。 4 子どもたちと楽しく遊んで、遊びの意義を理解しよう。 	
備 考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	・乳幼児の発達の特徴や保育などに関心を持ち、子どもの健全な成長を目指して意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身に付けている。
	思考・判断・表現	・子どもの健全な成長に関する諸問題の解決を目指し思考を深め、学習したことを生かして創意工夫する能力を身に付けている。
	技能	・児童文化財の製作等では子どもの興味・関心に応じた製作ができる。
	知識・理解	・乳幼児の発達の特徴、生活と保育などに関する知識を身に付け、保育の意義を理解している。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定		○		○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ ノート提出 (整理状況の確認) ○ 授業態度 (まじめな態度、積極的な発表) ○ 小テスト (単元ごとの確認テストなど) ○ 課題提出 (日常の課題及び長期休業中の課題)
---------	--

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
課題研究	2単位	農業科 (畜産科)	3 年

教科書	なし	副教材	なし
-----	----	-----	----

科目の目標	農業に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して、専門的な知識と技術の深化、総合化を図るとともに、問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 テーマ設定 2 課題研究テーマ発表 3 分野別研究・調査・製作活動 4 課題研究中間発表会	・テーマ設定、計画が自発できる。 ・継続的に取り組める態度を身に付ける
2 学 期	5 分野別研究・調査・製作活動 6 研究成果のまとめ 7 2学期の反省	・継続的に取り組める態度を身に付ける ・研究内容のまとめができる。
3 学 期	8 研究成果のまとめ 9 課題研究成果の発表	・研究内容を発表できる。 ・レポート作成できる
学習のポイント	1 自らテーマを考え、自発的に学習しよう。 2 計画を立て、継続的に研究を進めていこう。 3 グループの仲間と協力して研究を進めていこう。 4 自分の研究について自ら評価していこう。	
備考		

評価の観点	関心・意欲・態度	学習活動への参加の姿勢や態度を、出席、授業態度、活動記録簿等で評価します。
	思考・判断・表現	仮説の立て方・計画・実施・課題設定等を活動状況、活動記録簿で評価します。
	技能	データ処理方法、まとめ方、プレゼン技術等を活動記録簿、発表等で評価します。
	知識・理解	研究テーマについて理解が深まったかを、活動報告書、発表、提出物等で評価します。

定期考査	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
実施予定					

評価方法	研究レポート提出、計画書提出、実施報告書、テーマ発表会、中間発表会、まとめ発表会、出席状況、を総合的に評価する。
------	--

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
総合実習	4単位	農業科 (畜産科)	3 年

教科書	なし	副教材	なし
-----	----	-----	----

科目の目標	農業の各分野に関する体験的な学習を通して、総合的な知識と技術を習得させ、経営と管理についての理解を深めさせるとともに、企画力や管理能力などを身に付け、農業の各分野の改善を図る実践的な能力と態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 専攻別実習 ・大 家 畜 乳牛の体の特徴や日常の管理方法について ・中小家畜 豚や鶏の体の特徴や日常の管理方法について ・栽 培 土作りや野菜・草花の日常の管理方法について ※各専攻班でプロジェクト活動の実施、まとめ、発表	・各専攻班の管理ができる。 ・プロジェクト活動に取り組む姿勢
2 学 期	2 専攻別実習 ・大 家 畜 飼料作物の栽培と調整について ・中小家畜 豚・鶏の繁殖・育成等の飼養管理方法について ・栽 培 タマネギ苗や草花の栽培管理方法について ※各専攻班でプロジェクト活動の実施、まとめ、発表	・各専攻班の管理ができる。 ・プロジェクト活動のまとめ発表ができる。
3 学 期	3 専攻別実習 ・大 家 畜 乳牛の毛刈りや調教について ・中小家畜 ポニー等の小動物の管理方法について ・栽 培 野菜苗の栽培と管理方法について ※各専攻班でプロジェクト活動レポートの作成	・各専攻班の管理ができる。 ・プロジェクト活動の評価、課題を見つけることができる。

学 習 の ポ イ ン ト	1 総合実習は動植物を扱う科目です。適切な管理方法を身に付けよう。 2 服装は実習服を着用して行います。服装の不備は怪我につながるのできちんとしよう。 3 農場での記録もありますので筆記用具と野帳を必ず準備しよう。 4 危険を伴う実習もありますので先生の説明をよく聞き、機器の使い方を理解した上で、実習に取り組もう。 5 プロジェクト活動に積極的に取組に取り組もう。
---------------------------------	---

備考	1単位は放課後、土日、祝祭日、長期休業中に実施する。
----	----------------------------

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	実習態度、出席状況を評価します。また、実習報告書を点検し、評価します。
	思考・判断・表現	農業実習において基礎的な知識を身につけ、適切な判断ができたか評価します。
	技能	実習内容を理解し、効率よく実習ができる技能が身についたか評価します。
	知識・理解	定期考査及び農業鑑定競技を実施し、農業現場で実際に役立つ知識が習得できたか評価します。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定		○		○	○

評 価 方 法	定期考査、プロジェクト発表、プロジェクト活動レポート提出、実習報告書、行事報告書、課題提出、出席状況等を総合的に評価する。
---------	---

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
農業情報処理	2単位	農業科 (畜産科)	3 年

教 科 書	農業情報処理 (実教出版)	副 教 材	Excel で学ぶ全商情報処理検定テキスト3級
-------	---------------	-------	-------------------------

科目の目標	社会における情報化の進展と情報の意義や理解させ、情報に関する知識と技術を習得させるとともに、農業情報及び環境情報を主体的に活用する能力と態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 情報システム ・ 私たちの生活と情報システム ・ 農業における情報システム 2 ワードプロセッサの利用 3 農業情報と伝達通信メディア 4 農業各分野における情報の活用	・情報システムと農業との関係について学習します。 ・上級検定合格のための技術を身につけます。
2 学 期	5 農業のシステム化 ・精密農業 ・農薬使用リスク管理システム ・農産物の安全システム 6 データベースシステム ・データベースの利用 7 農業とプロジェクト学習 ・プレゼンテーションソフトにおけるプレゼン作成	・情報システムの農業分野での活用法について学習します。 ・データベースの利用について学習します。 ・農業情報処理の授業で身につけた技術を使ってプレゼンを作成します。
3 学 期	8 農業とプロジェクト学習 ・プレゼンテーションソフトにおけるプレゼン作成 ・発表	・作成したプレゼンを使って発表し、技術が習得できているか確認します。
学 習 の ポ イ ン ト	1 1、2年次よりも農業分野と関連性の高い内容を学習します。他教科で学んだ内容と関連づけたり、活用法を考えると良いでしょう。 2 農業情報処理の授業で身につけた技術が身に付いているか確認します。学んだ技術を実際に使えるように学習に取り組みましょう。	
備 考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	授業態度や記録帳、授業で作成したデータ、資料を点検し評価します。			
	思考・判断・表現	実技や発表の態度、定期考査により評価します。			
	技能	コンピュータの操作や情報処理技術を実技と作成した資料、発表などで評価します。			
	知識・理解	定期考査、授業で作成したデータ、プレゼンテーションから評価します。			
定 期 考 査 実 施 予 定	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
	○	○	○	○	○
評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。				

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
野菜	2単位	農業科 (畜産科)	3 年

教科書	野菜 (実教出版)	副教材	なし
-----	-----------	-----	----

科目の目標	野菜の生産と経営に必要な知識と技術を習得させ、野菜の特性や生産に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上及び経営の改善を図る能力と態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 春まき野菜 (1)野菜の選定 (2)栽培法研究 (3)栽培 ・ほ場準備 ・ほ種、定植 ・管理 (4) 生育調査など (5)収穫 (6)収量・品質調査など (7)片づけ	・トマトの温室栽培を通して野菜の栽培技術を身に付けさせる。
2 学 期	3 葉や茎や根を利用する野菜の栽培 (1)イコン (2)ホウレンソウ (3)ブロッコリー (4)タマネギ (5) ハクサイ 4 野菜の育苗 (1)育苗の目的と方法 (2)育苗技術実際と応用 (3)床土とそのつくり方 (4)種まきと育苗管理	・栽培技術をほかの野菜に応用する。
3 学 期	5 野菜の流通と経営改善 (1)野菜の流通と鮮度保持 (2)野菜生産の経営改善と課題。 6 肥料計算 7 倍率計算 8 面積計算	・野菜栽培における経営面の改善について考えさせる。
学 習 の ポ イ ン ト	1 実践的・体験的な学習が多く、実習を伴うため、実習服の着用が必要です。 2 物質循環機能を生かし、環境と調和した農業生産を心掛けよう。 3 新鮮・良質・安全な食料供給を考えよう。	
備考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	常に関心を持ち、意欲的に取り組む態度が身についているかを出席・授業態度・実習態度(身だしなみを含む)等で評価します。
	思考・判断・表現	実習の内容を的確に理解できる力と判断力が備わっているか。実習、報告書、提出物等で評価します。
	技能	安全面を十分に注意しつつ円滑な作業・操作ができているかを、実習、提出物で評価します。
	知識・理解	野菜の特性や栽培技術を理解し知識としてなっているかを、定期考査、レポート、小テストで評価します。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。 ○ノート提出(授業内容の理解のための確認) ○授業態度・自習態度(まじめな態度、自主性、記録簿も評価) ○課題提出(夏期休業中の課題レポートを評価する。
---------	--

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
草花	2単位	農業科 (畜産科)	3 年

教 科 書	草花 (実教出版)	副 教 材	なし
-------	-----------	-------	----

科目の目標	草花の栽培と経営に必要な知識と技術を習得させ、草花の特性や栽培に適した環境を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 花壇用草花生産 ・サルビア ・ニチニチソウ ・ペチュニア	・草花栽培の基礎的・基本的な栽培管理について理解する。 ・草花の生理的・生態的な特性や栽培に適する環境について理解する。
2 学 期	・ハボタン 2 鉢物生産 ・鉢ものの生産の特色 ・鉢ものの生産資材と商品化技術 ・ゼラニウム ・ポットマム	・鉢ものの生産に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得する。 ・栽培環境や経営実態に合った有利な種類・品種の選び方を理解する。 ・鉢ものの商品価値を高める技術を習得する。
3 学 期	・洋ラン	
学 習 の ポ イ ン ト	1 授業中に理解できなかったことは、そのままにしないで積極的に質問してください。 2 ノートやファイルは板書事項を写すだけでなく、自分で考えたことや疑問に思ったことをメモしておく、後に役立ち、学習に広がりがあります。 3 実習では実習内容のメモをしっかりとることが大切です。また、実習服に着替え、農機具を使用するので安全作業にも気をつけてください。	
備 考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	学習や実習への取り組みについて授業・実習態度や出席状況、報告書で評価します。
	思考・判断・表現	草花の栽培に関して適切な判断や工夫ができるかを実習状況や報告書で評価します。
	技能	実習の内容を理解し、能率よく作業ができる技術が身につく、多様な実習に幅広く対応して確実に実習ができているかを実習状況や報告書、課題等で評価します。
	知識・理解	草花栽培技術、生活の中での草花の重要性や、栽培に適した環境等について理解しているかを定期考査、課題等で評価します。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、実習報告書提出、課題提出、授業態度等を総合的に評価する。
---------	---

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
畜産	4単位	農業科 (畜産科)	3 年

教 科 書	畜産 (実教出版)	副 教 材	なし
-------	-----------	-------	----

科目の目標	家畜の飼育と経営に必要な知識と技術を習得させ、家畜の特性や飼育環境を理解させるとともに、合理的な家畜管理と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い	
1 学 期	養豚 1 豚の繁殖 ・生殖器・性成熟と発情周期 ・胎児の発育と分娩 ・異常分娩と奇形 ・母豚の飼養管理 2 肉豚の肥育 ・養豚飼料と食糧自給率	酪農 1 飼料作物の特徴と草地の管理 ・サイレージ調製、事故 ・サイロの種類 2 子牛の育成 ・人工哺乳・離乳 3 飼料の特性と給与 ・栄養要求率・飼料計算	・豚の繁殖と肉牛の肥育について知識、技術を身につける。 ・飼料作物やサイレージ調製時の事故防止のために知識、技術を身につける。
2 学 期	・防暑対策 ・繁殖雌豚の育成 ・飼料の種類と特性、配合 3 豚の病気と予防衛生 ・健康状態の観察 ・飼育環境と予防衛生 4 養豚の経営 ・経営形態とその特徴 ・企業養豚	・飼料計算・乾乳期の管理 4 飼育環境の調節 5 排泄物の利用 ・ふん尿の処理、利用 6 酪農の経営 ・経営に形態・牛乳の流通 ・経営の診断 7 技術成績と収益の関係 ・血統登録・牛群審査	・肉豚の育成、予防衛生、養豚の経営についての知識技術を身につける。 ・酪農経営やふん尿の処理家畜改良と収益について知識と技術を身につける。
3 学 期	5 家畜排泄物の処理と利用 ・污水处理・堆肥製造	8 乳牛の繁殖 ・受精卵移植	・污水处理や受精卵移植について学習する。 ・学習内容のまとめをする。
学 習 の ポ イ ン ト	1 乳牛や豚など家畜の飼育の方法を学ぶ科目です。 2 家畜と直接ふれあって習性や飼育方法を学びましょう。 3 繁殖をさせなければ乳・肉・卵などの生産物は出来ません。繁殖についてしっかり学びましょう。また、生産物を有利に販売する方法についても学び、経営者能力を身に付けましょう。		
備 考			

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	関心を持って意欲的に取り組んでいるか授業・実習態度、ノートへの記入状況を点検し、評価します。
	思考・判断・表現	授業・実習を通して技能を身に付け適切な判断ができたかどうか定期考査、実習の態度により評価します。
	技能	実習中を通して安全に留意し効率的な作業ができているか、実習報告書の記入状況により評価します。
	知識・理解	家畜の生態、管理法について理解し、知識となっているかを定期考査、ノートや実習報告書への記入状況を点検し評価します。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。
---------	----------------------------

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
農業経営	3単位	農業科 (畜産科)	3 年

教 科 書	農業経営 (実教出版)	副 教 材	なし
-------	-------------	-------	----

科目の目標	農業経営の設計と管理に必要な知識と技術を習得させ、コスト管理とマーケティングの必要性を理解させるとともに、経営管理の改善を図る能力と態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	農業経営の会計 1 簿記の基礎 (1)簿記とは (2)資産・負債・資本 (3)収益・費用 (4)取引と勘定 (5)仕訳と総勘定元帳 (6)試算表・精算表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簿記の基礎を定着させる。
2 学 期	2 簿記の実際 (1)現金・預金 (2)棚卸し資産 (3)掛け取引 (4)その他の債権・債務 (5)資産・負債の種類と固定資産 (6)家族経営の資本 (7)収益・費用 (その2) (8)決算 (9)帳簿と伝票 3 原価計算 (1)内部活動と原価計算 (2)生産費と農家資産の評価 (3)複式簿記による原価計算	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簿記の記帳方法を定着させる。 ・ 畜産業における経営の特徴と記帳方法を理解、定着させる。
3 学 期	農業経営の診断と設計 1 農業経営の診断 (1)農業経営診断の要点と指標 (2)経営の診断の基準・方法 (3)家族経営の分析と診断	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経営診断方法を理解させる。 ・ 経営改善方法を理解させる。
学 習 の ポ イ ン ト	「農業経営」では、わが国の農業の現状を知り、農業経営の実態と特徴を理解することが大切です。経営実態を正確に知るためには、簿記の記帳の仕方を理解する必要があります。	
備 考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己の目標を目指し、毎時間意欲的に取り組んでいる。 ・ 忘れ物をせず、提出物を期限までに提出できる。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簿記の原理を理解し、経営に当てはめて考えることができる。
	技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業簿記の基礎基本が身につく、経営診断や改善につなげることができる。
	知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 農業簿記が記帳できる。 ・ 農業簿記から経営診断、分析ができる。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、単元テスト、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。
---------	----------------------------------

農 業

科目名	単位数	学科	学年
農業機械	3単位	農業科(畜産科)	3年

教科書	農業機械(実教出版)	副教材	なし
-----	------------	-----	----

科目の目標	農業機械の取扱いと維持管理に必要な知識と技術を習得させ、機械の構造と作業上の特性を理解させるとともに、農業機械の効率的な利用を図る能力と態度を育てる。また、農業機械の安全な運転操作方法及び合理的な利用に必要な知識と技術を習得させる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 農業機械の役割 (1)農業機械化の意義 (2)農業機械の利用とその現状 2 内燃機関 (1)4サイクルガソリンエンジンの作動原理 (2)4サイクルガソリンエンジンの構造 (3)4サイクルガソリンエンジンの取扱いと整備 (4)エンジンの分解 (5)エンジンの性能 (6)燃料と潤滑油	・農業機械の構造を理解し、メンテナンス技術を身につける。
2 学 期	3 乗用トラクタ (1)種類 (2)基本運転と操作 (3)作業の安全確保 (4)構造と機能 (5)トラクタの性能 (6)点検整備 4 作業機 (1)すきとプラウ (2)碎土機 (3)ロータリとロータ (4)牽引	・トラクタの運転操作を習得し、作業機の特長やメンテナンスの知識を身につける。
3 学 期	5 農業機械と安全 (1)溶接と切断 (2)農作業による事故と健康障害 (3)安全に関する法規	・溶接や切断技術について理解し、修繕や工作の幅を広げる。
学 習 の ポ イ ン ト	1 農業機械を操作する楽しさを体験しよう。 2 農業機械の取扱いにおいては、実習服を着用して行います。服装の不備は事故につながるのできちんとしよう。 3 農業機械の操作では、危険を伴うので、先生の話をよく聞き、操作方法を理解した上で、取り扱おう。	
備考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	常に興味を持ち、意欲的に取り組む態度が身についているかを、出席、授業態度、実習態度(身だしなみ)等で評価します。
	思考・判断・表現	機械の操作等についての的確な理解と判断力が備わっているかを、実習態度、実技テスト、報告書等で評価します。
	技能	安全面を十分に注意しつつ円滑な作業・操作ができているかを、実習態度、実技テスト等で評価します。
	知識・理解	機械の構造や機能をよく理解し知識としてなっているかを、定期考査、小テスト、実技テストで評価します。

定期考査 実施予定	1学期中間	1学期末	2学期中間	2学期末	学年末
	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、授業態度、実習態度を総合的に評価する。 ○授業態度(真面目な態度、積極的な発表、考える姿勢) ○小テスト、自習プリントなど ○実習(道具の使い方、トラクタの運転)
---------	---

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
食品製造	3単位	農業科 (畜産科)	3 年

教 科 書	食品製造 (実教出版)	副 教 材	なし
-------	-------------	-------	----

科目の目標	食品製造に必要な知識と技術を習得させ、食品の特性と加工方法及び貯蔵の原理を理解させるとともに、品質と生産性の向上を図る能力と態度を育てる。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○食品製造の意義 ○食品製造の基礎 ○穀類の加工 <ul style="list-style-type: none"> 菓子類 めん類 パン類 ○野菜類の加工 <ul style="list-style-type: none"> トマト 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品製造の意義について学習します。 ・食品産業の現状と動向について学習します。 ・穀類の加工品の製造原理と加工方法を理解します。 ・野菜類の製造原理と加工方法を解します。
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○牛乳の加工 <ul style="list-style-type: none"> 乳酸飲料 アイスクリーム バター ○鶏卵の加工 <ul style="list-style-type: none"> マヨネーズ ○豆類・種実類の加工 <ul style="list-style-type: none"> 大豆の加工 	<ul style="list-style-type: none"> ・牛乳加工品の製造原理と加工方法を理解します。 ・鶏卵加工品の製造原理と加工方法を理解します。 ・豆類加工品の製造原理と加工方法を理解します。
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> ○食品製造の実践 <ul style="list-style-type: none"> 食品企業の経営 新商品開発 課題学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・食品製造の実践的な内容について学習します。 ・地域の加工品等について課題レポートを完成させます。
学 習 の ポ イ ン ト	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食品衛生には特に気を付けなければなりません。そのため、実習前には爪切りや手洗いを習慣化してください。 ○ いつも食べる人の喜ぶ顔を意識して最高のものを作るように心掛けましょう。 	
備 考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	実習態度、出席状況を評価します。また、実習報告書を点検し、評価します。
	思考・判断・表現	食品製造実習において基礎的な知識を身に付け、適切な判断ができたか評価します。
	技能	食品製造実習の内容を理解し、効率よく実習ができる技能が身に付いたか評価します。
	知識・理解	定期考査における知識の確認や食品製造実習を通して、必要な知識や役割等が理解できたか評価します。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	各単元の目標の到達度を、四つの観点から、「定期考査・小テスト」「課題やレポート、ノートの提出状況」「授業への取組」「出席状況」等をもとに総合的に評価します。
---------	--

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
植物バイオテクノロジー	2単位	農業科 (畜産科)	3 年

教科書	植物バイオテクノロジー (農文協)	副教材	なし
-----	-------------------	-----	----

科目の目標	植物に関するバイオテクノロジーの知識と技術を習得させ、植物体の特性とバイオテクノロジーの特質を理解させるとともに、農業の各分野で応用する能力と態度を育てる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 植物バイオテクノロジーの意義と役割 (1)生物の機能とバイオテクノロジー (2)人間社会とバイオテクノロジー 2 植物バイオテクノロジーの基礎 (1)植物細胞の構造と働き (2)分化と植物ホルモン 3 植物組織培養の基礎 (1)組織培養の目的 (2)組織培養の方法 ・組織培養の手順	・植物バイオテクノロジーの意義を学習し、農業分野に普及し、産業社会が発展・進化していくことを理解させる。
2 学 期	・培地の組成と調整 ・培養組織の生育と環境 ・施設・機器・器具 4 安全管理 (1)器具の取扱い (2)薬品の取扱い 5 茎頂培養 (1)カーネーションの茎頂培養	・具体的操作や育苗などに関わり、その実際を実習によって身に付ける。
3 学 期	6 無菌播種 (1)ラン類の無菌播種 7 植物バイオテクノロジーの現状と課題 (1)農業におけるバイオテクノロジーの成果 (2)地球環境の保全とバイオテクノロジー	・育苗した植物をさらに増殖する技術を身に付ける。
学 習 の ポ イ ン ト	1 体験的な学習がほとんどで、技術の習得が目的です。 2 薬品などを使用する事が多く、服装はきちんと白衣に着替えます。 3 いろいろな機器・器具を使用するので、先生の話をよく聞き、事故のないように取り組もう。	
備考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	常に関心を持ち、意欲的に取り組む態度が身についているかを出席・授業態度・実習態度 (身だしなみを含む) 等で評価します。
	思考・判断・表現	実習の内容を的確に理解できる力と判断力が備わっているか。実習、報告書、提出物等で評価します。
	技能	安全面を十分に注意しつつ円滑な作業・操作ができているかを、実習、提出物で評価します。
	知識・理解	バイオテクノロジーの知識や技術が理解できているか、定期考査、レポート、小テストで評価します。

定期考査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学年末
実施予定	○	○	○	○	○

評価方法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。
------	----------------------------

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
動物バイオテクノロジー	2単位	農業科 (畜産科)	3 年

教 科 書	動物バイオテクノロジー (実教出版)	副 教 材	なし
-------	--------------------	-------	----

科目の目標	動物バイオテクノロジーや実験動物の飼育・管理に関する知識と技術を習得させ、動物の生理特性とバイオテクノロジーの特質を理解させるとともに、農業各分野で応用する能力と態度を育てる。
-------	--

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 バイオテクノロジーの意義 ・バイオテクノロジーとは ・生殖細胞 ・人工授精 ・受精卵移植 ・性決定と雌雄判別	・生殖細胞、人工授精、受精卵移植、雌雄判別などの技術について知識を身につける。
2 学 期	3 バイオテクノロジーの意義 ・核移植 ・クローン技術 ・家畜改良技術の比較 ・精子の観察、人工授精見学 ・遺伝子操作で生まれる動物 4 動物バイオテクノロジーの展望 ・動物資源の改良と増産	・クローン技術に至るまでの技術について知識を身につけ、家畜改良技術の進歩について学ぶ。 ・遺伝子操作について学ぶ。
3 学 期	5 動物バイオテクノロジーの展望 ・病気の原因解明、新薬開発への期待	・動物バイオテクノロジーの可能性について学ぶ。
学 習 の ポ イ ン ト	1 動物に関するバイオテクノロジーについて知識を習得し、農業の各分野で応用できるようにしよう。 2 動物の観察や生育の様子を調査・観察し、観察力を付けましょう。	
備 考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	授業態度がよく、興味関心が高く、意欲的にバイオテクノロジー実験・学習等に取り組む姿勢が見られたか。
	思考・判断・表現	バイオテクノロジーに関する基礎的・基本的な知識を身につけ、適切な判断ができたか
	技能	バイオテクノロジーの内容を理解し、能率的に作業に取り組める技術や技能が身に付いているか。実験器具等の取り扱い技術が身に付いているか。
	知識・理解	定期考査における知識の確認やバイオテクノロジーの授業を通して、必要な知識・必要な器具、機材の名称、役割等が知識として理解できているか。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、授業態度等を総合的に評価する。
---------	----------------------------

農 業

科 目 名	単 位 数	学 科	学 年
生物活用	2単位	農業科 (畜産科)	3 年

教 科 書	生物活用 (農文協)	副 教 材	なし
-------	------------	-------	----

科目の目標	社会動物の活用に必要な知識と技術を習得させ、生活の質の向上や健康の改善を図る能力と態度を育てる。本校では、ポニー、ウサギ、ヤギなどについての基本的な知識の習得及び移動動物園等での活動を通じた技術の習得を目標とする。
-------	---

	学 習 項 目	学 習 の ね ら い
1 学 期	1 ウマの活用 (1)ウマの誕生と活用のあゆみ (2)我が国におけるウマの活用 (3)これからのウマの活用 ・ウマの種類と品種 ・ウマの性質と行動 ・ウマの飼育と管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ウマの品種 ・ウマの特徴・性質 ・ウマの行動 ・ウマの飼育・管理方法
2 学 期	(4)飼育施設 (5)飼料と飼料給与 (6)日常の飼育管理 (7)衛生管理と病気対策 (8)調教 2 ウサギの活用 (1)ウサギの種類	<ul style="list-style-type: none"> ・ウマの飼育・管理方法 ・ウマの衛生管理方法 ・ウマの病気対策 ・ウマの調教方法と技術 ・ウサギの種類
3 学 期	(2)活用と特徴 (3)行動の特徴と飼育	<ul style="list-style-type: none"> ・ウサギの品種・特徴・歴史等
学 習 の ポ イ ン ト	1 実習を通して、動物の適切な管理方法を身に付けよう。 2 服装は実習服を着用して行います。服装の不備はけがにつながるのできちんとしよう。 3 農場での記録もありますので筆記用具と野帳必ず準備しよう。 4 動物管理実習においては危険を伴う場合もありますので、先生の説明をよく聞き、理解した上で行動しよう。	
備 考		

評 価 の 観 点	関心・意欲・態度	実習態度、出席状況を評価します。また、実習報告書を点検し、評価します。
	思考・判断・表現	実習、授業において基礎的な知識を身につけ、適切な判断ができたか評価します。
	技能	実習内容を理解し、効率よく飼育、管理をする技能が身についたか評価します。
	知識・理解	定期考査における知識の確認や、現場で実際に役立つ知識が習得できたか評価します。

定 期 考 査	1 学期中間	1 学期末	2 学期中間	2 学期末	学 年 末
実 施 予 定	○	○	○	○	○

評 価 方 法	定期考査、ノート提出、実習報告書提出、授業態度等で総合的に評価します。
---------	-------------------------------------